

地域包括ケアの推進要件に関する一研究

—自由記述の分析を通して—

吉田麻衣(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 潮谷有二(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 宮野澄男(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 奥村あすか(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 HP <http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/>
 Facebook <https://www.facebook.com/cmw.njunshin>

1

I. 研究の背景と目的

- 平成23年の介護保険法の改正をふまえ、全国の市区町村において「地域包括ケアシステム」の整備が進められ、地域包括支援センターが中核的な役割を求められている。
- しかし、地域包括支援センターに関する全国規模での調査研究として公表されているものは、わずかしかが存在していないのが現状である。
- このため、長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、全国の地域包括支援センターを対象とした「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」を実施した。
- 宮野ら(2014)は、当該調査から得られた「あなた(回答されている方)は、地域包括支援センター圏域において地域包括ケアを推進していくにあたり、何が必要だと思われるか、ご自由に記入下さい。」という問いに関する自由記述によるテキストデータを対象に、樋口(2004)が開発したKH Coder (Ver.2.beta.31)を用いて分析を行い、その結果については『純心現代福祉研究 第18号』に報告している。宮野ら(2014)の研究は、テキストデータを客観的に分析するための準備作業として、自由記述においてどのような語彙が用いられていたのかについて明らかにしたものであった。

- そこで本報告では、宮野ら(2014)の研究成果を踏まえ、それを引き継ぎ発展させるということも視野に入れて、地域包括支援センターが地域包括ケアを推進していくにあたり、何が必要となっているのかについて探索的に明らかにすることを目的とした。

2

II. 方法

1. 調査対象者	全国の地域包括支援センター(サブセンター・プランチ含む)4,834か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者
2. 調査方法	質問紙を用いた自計式の郵送調査法
3. 調査期間	2014年2月から同年2月末日
4. 回収率	25.2%(1,217件)
5. 調査票の作成手続き	三菱総合研究所(2013)による『地域包括支援センターにおける業務実態や機能のあり方に関する調査研究事業報告書』等の内容を分析し、地域包括支援センターの社会福祉士2名を対象とするプレテストを3回行い、その結果をふまえて調査票を作成した。
6. 倫理的配慮	調査の実施に伴う倫理的配慮として、調査依頼文及び調査票の表紙に回答は厳重に秘密を守って統計処理を行いプライバシーが外部に漏洩することはない旨を記し、調査への協力を得た。また、調査対象者や調査対象となった地域包括支援センターを特定することができないように、必要に応じて固有名詞や地名等のマスキングを行った。

3

7. 分析方法

(1)本研究では、「あなた(回答されている方)は、地域包括支援センター圏域において地域包括ケアを推進していくにあたり、何が必要だと思われるか、ご自由に記入下さい。」という問いに対する自由記述式に対する自由記述式の回答(n=773)からなるテキストデータを分析対象とした。

(2)分析方法は、KH Coder (Ver. 2.beta.32h)を用いたテキストマイニングによって、計量的にテキストデータの分析を行った。具体的な方法については、潮谷(2012)、樋口(2014)を参考にしつつ、下記の通り行った。

- ①テキストデータのテキストマイニングによる分析を可能にするため、できるだけ原文での記述形態を損なうことのないように、自由記述において使用されている語句の修正を行った。
- ②KH Coderのコマンドを通して茶筌による形態素分析を行い、基本統計量を算出した。また、抽出語リスト及び頻出150語を抽出した表を作成し、抽出語の確認を行った。さらに、媒介中心性による共起ネットワークの結果をもとに、抽出語相互の関連性について確認を行いながら、KWIC(keyword in context)コンコーダンスによってテキストデータでどのような語の前後及び文脈で使用されているのかを確認した。これらの作業を繰り返し行い、同義語を作成し、処理を行った。
- ③同義語処理を行ったテキストデータの基本統計量を算出するとともに、抽出語リスト、頻出語の頻出150語の表及び媒介中心性による共起ネットワーク分析を行った。
- ④共起関係を踏まえて、再度KWICコンコーダンス分析及びコロケーション統計によって分析を行った。

4

Ⅲ. 結果

1. 形態素分析による抽出語の確認と同義語の選定結果
(1) 基本統計量

総抽出語数(使用)	29,619 (13,333)
異なり語数(使用)	2,052 (1,656)
抽出語の出現回数の平均	8.05
抽出語の出現回数の標準偏差	32.21
集計単位 文 ケース数	2,114
段落ケース数	1,206

(2) 頻出上位50語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	744	機関	168	構築	85	事業	66
連携	294	資源	161	高齢	84	確保	61
包括	293	社会	146	職員	83	業務	61
必要	263	介護	145	福祉	82	推進	60
住民	226	理解	140	会議	79	生活	60
ケア	202	サービス	137	意識	75	専門	57
医療	194	行政	134	体制	73	考える	56
思う	185	ネットワーク	125	開発	69	フォーマ	53
支援	185	課題	90	協力	68	職種	52
関係	175	センター	86	把握	68	人	52

出典：宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要－地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析－」『純心現代福祉研究 第18号』, pp.87-92.

(3) 抽出語の共起ネットワーク分析の結果

最小出現数: 13
最小文書数: 1
集計単位: 文
品詞: 名詞, サ変名詞, 形容動詞, 固有名詞, 組織名, 人名, 地名, ナイ形容, 副詞可能, 未知語, 感動詞, 動詞, 形容詞, 副詞, 名詞C
分析対象となった抽出語: 161語
Jaccard係数 ≥ 0.2
Node=38
Edge=31
Density=0.044

出典：宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要－地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析－」『純心現代福祉研究 第18号』, pp.87-92.

同義語処理前

地域包括支援センター
包括センター
包括
包括支援センター
地域包括
地域支援センター

同義語処理後

地域包括支援センター

(4) 同義語処理前後の用語

同義語処理前の用語	同義語処理後の用語
包括センター, 包括, 地域包括, 地域支援センター, 包括支援センター	地域包括支援センター
包括ケア	地域包括ケア
在介センター	在宅介護支援センター
ケアマネ, ケアマネジャー, ケアマネージャー, CM	介護支援専門員
社協	社会福祉協議会
MS, MSW	医療ソーシャルワーカー
民委, 民生, 民生委員	民生委員・児童委員
ケアシステム, 包括ケアシステム, 地域包括ケア	地域包括ケアシステム
地域包括ケア会議	地域ケア会議
老健	介護老人保健施設
訪看	訪問看護
サ高住	サービス付き高齢者向け住宅
Dr, 医者	医師
SV	サービス
リハ, リハビリ	リハビリテーション
ボラ	ボランティア
訪診	訪問診療
介護保険サ事業所	介護保険サービス事業者
多職種, 他職種	多(他)職種

※なお、同義語の処理は文脈を読み取り、同義語として扱うことの妥当性を判断した上で、処理を行った。

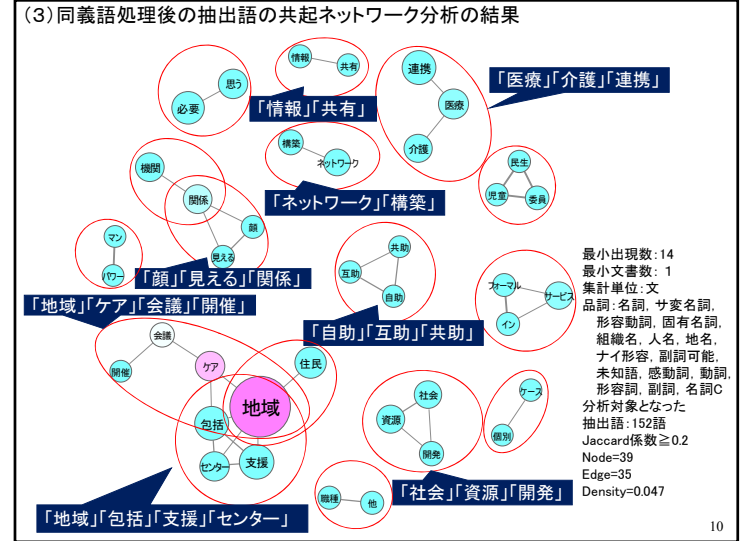
2. 同義語処理後の分析結果

(1) 同義語処理後の抽出語の基本統計量

総抽出語数(使用)	30,249(13,829)
異なり語数(使用)	2,029(1,636)
抽出語の出現回数の平均	8.45
抽出語の出現回数の標準偏差	35.38
集計単位 文 ケース数	2,114
段落 ケース数	1,206

(2) 同義語処理後の頻出上位50語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	888	関係	175	福祉	89	把握	68
支援	309	機関	168	高齢	86	事業	66
包括	294	介護	165	構築	85	委員	61
連携	294	資源	161	職員	83	確保	61
必要	263	社会	153	会議	79	業務	61
住民	226	サービス	141	意識	75	推進	60
医療	197	理解	140	専門	75	生活	60
センター	188	行政	134	体制	73	考える	56
ケア	185	ネットワーク	125	開発	69	フォーマル	53
思う	185	課題	90	協力	68	職種	52



抽出語	右1	右2	右3
地域	包括	支援	センター
地域	包括	ケア	
地域	住民		
地域	ケア	会議	
地域	課題		

地域包括支援センター

複合語を作成し、強制抽出する必要があることが明らかになった。

地域ケア会議
ケア会議

複合語を作成する上で留意する必要があるということが分かった。

民生委員・児童委員

同義語処理をした用語の一部は、複合語として強制抽出をする必要があることが明らかになった。

IV. 考察

- 同義語処理を行い、分析した結果、共起関係に着目すると、地域包括ケアの推進要件に係るキーワードは、下記の表のように整理することができた。
- また、地域包括ケアの推進要件について具体的に明らかにするためには、「地域包括支援センター」や「民生委員・児童委員」等といった複合語を作成し、強制抽出して分析を行う必要があるということや、テキストマイニングによる分析結果の解釈を容易にするためには、分析対象とする品詞の選定も必要になるということを指摘しておきたい。
- なお、上記のことを踏まえた分析結果については、日本社会福祉学会第63回秋季大会(2015. 9.19～9.20)にて報告予定である。

「顔」「見える」「関係」	「マン」「パワー」
「関係」「機関」	「情報」「共有」
「民生」「児童」「委員」	「地域」「包括」「支援」「センター」
「ネットワーク」「構築」	「地域」「包括」「ケア」
「社会」「資源」「開発」	「地域」「ケア」「会議」「開催」
「個別」「ケース」	「地域」「住民」
「共通」「認識」	「イン」「フォーマル」「サービス」
「自助」「互助」「共助」	「医療」「介護」「連携」
「他」「職種」	

13

文献

- 樋口耕一(2004)「テキスト型の計量的分析—2つのアプローチの峻別と方法—」『理論と方法』, 19(1), pp.101-115.
- 樋口耕一(2014)「社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—」ナカニシヤ出版.
- 三菱総合研究所(2013)『地域包括支援センターにおける業務実態や機能のあり方に関する調査研究事業報告書』.
- 宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要—地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析—」『純心現代福祉研究 第18号』, pp.87-92.
- 潮谷有二(2012)「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究—社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して—」一般社団法人日本社会福祉学会編『対論 社会福祉学3 社会福祉運営』中央法規出版, pp.281-324.
- 潮谷有二・宮野澄男・奥村あすか・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要」『純心現代福祉研究 第18号』, pp.33-72.

※ 本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。

14